

NEWS PAPER

SUPER FORMULA 2021

P.MU/CERUMO・INGING Race Report



@INTERVIEW

Sho TSUBOI #38

38号車 ドライバー 坪井 翔

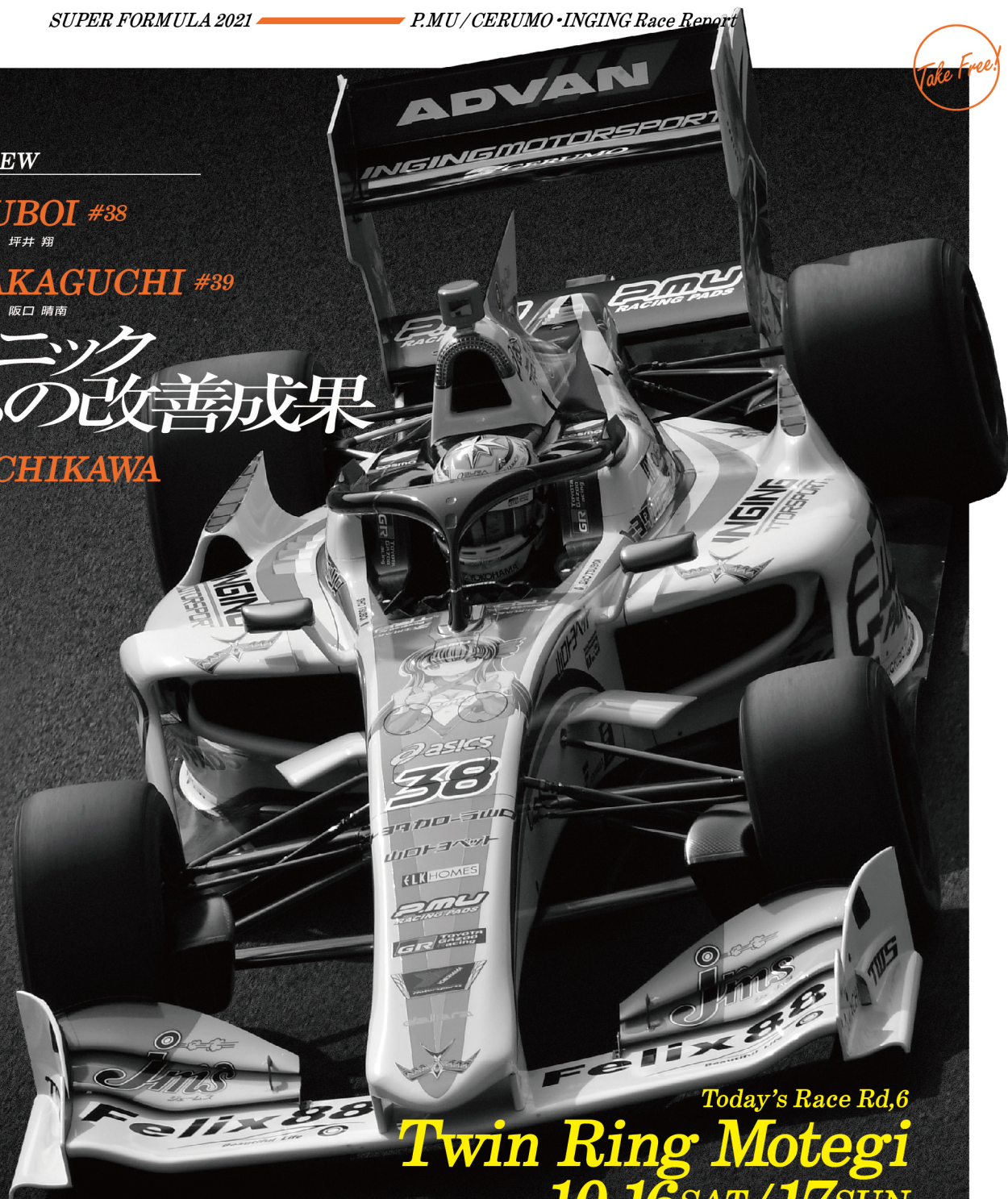
Sena SAKAGUCHI #39

39号車 ドライバー 阪口 晴南

メカニック たちの改善成果

Yuji TACHIKAWA

監督 立川 祐路



Today's Race Rd,6

Twin Ring Motegi

10.16 SAT / 17 SUN

@Race Archive Rd.5 Twin Ring Motegi

緊迫の

ピットイン

PitIn!

6

Vol.

@Race Archive

Rd.5 Twin Ring Motegi レースアーカイブ Round.5 ツインリンクもてぎ

予選 6月19日(土) 天候:晴れ | コース状況:ドライ

緊迫のピットイン

迎えた予選日、今日も朝からうだるような暑さ。ピットの中は、フリー走行が始まる午前8時30分の時点で、35度を超えていた。1時間半に亘る走行セッションは、クルマの感触は悪くなかったと感じた坪井と、走り出しから難しく、最後にニュータイヤを入れてみたものの状況は大きく変わらなかった阪口。それぞれ、順位としては、坪井 13 番手。阪口 12 番手だったが、午後に向けてセットアップを大きく変え予選に備えた。

午後2時35分から始まった公式予選 Q1、Q2 は、コース上の混雑を避け十分にアタック出来るよう今回も2グループに分けられ、阪口が A、坪井が B グループでアタックした。それぞれ 10 分間のセッションの後、各グループ7台ずつで合計 14 台が Q2へ進出となる。

Aグループ阪口、Bグループ坪井、運命のQ1スタート。

Aグループ9台、阪口からQ1がスタート。ユーズドタイヤでコンディションを確認したのち、ニュータイヤへ履き替えアタック。計測4周目、1分32秒793をマーク。4番手でQ2へ進出した。Bグループ、坪井が出走。10台のアタック。1分32秒547で3番手となり、2台揃ってQ2へ進出した。

7台が7分間アタックする中、各グループ4台がQ3へ進出。Aグループ阪口は計測3周目、1分32秒406の4番手でQ3へ進出。Bグループ坪井は、1分31秒997で6番手。残念ながらQ3へ進出ならなかった。

8名の予選ファイナリストに残った阪口。7分間のアタックに挑む。計測3周目、1分31秒937.8番グリッドを獲得した。

阪口、Q3で8番グリッドを獲得

両者Q3進出なるか



決勝 6月20日(日) 天候:曇り | コース状況:ドライ
湿気はあるものの予選日より気温が下がり、若干過ごしやすい朝を迎えたツインリンクもてぎ。午前9時からのフリー走行は、阪口8位、坪井11位。レースペースに改善を加えるべく、チームは決勝に備えた。レースフォーマットの決勝35周は、昨年の同時期、コロナ禍でようやく迎えた開幕戦と同じ周回数ではあるが、今年はピット作業を加える形になった。

レーススタートまもなく、好調な走りを見せつつも多重クラッシュにが発生

午後2時フォーメーションラップ開始。全車がグリッドにつきグリーンフラッグが振られると、熱戦の火ぶたが切られて落とされた。阪口は得意のスタートを決め1つポジションをあげ6番手。坪井は、OTSを使い9番手で1コーナーを通過。このオープニングラップの際、V字コーナーで3号車が5号車に接触し、バランスを崩してしまつた5号車とそれに巻き込まれ行き場を失つた12号車、14号車による多重クラッシュが発生。2周目よりセーフティカーが導入された。その後、マシンの回収が終わると、セーフティカーが解除となり5周目でレースがリスタートした。



ピットを引っ張る作戦へ

坪井は、阪口とは別の戦略を取りピットを引っ張る作戦。その後19周目を消化しピットへと向かった。7位でコース復帰するもまだアウトラップである為、2台前に行かれ9番手。25周、まだピット作業を未消化のクルマがピットイン、阪口5位、坪井8位へ。26周、それまでトップを走行していた20号車がピットイン。これで全車がレーティングのピット作業を完了。2台のポジションの変動はナシ。阪口は、後続が追いつくもきっちり抑えきり5位フィニッシュ。坪井はゴール直前に1台抜かれたものの9位でチェッカーを受け、2台共にポイントを獲得した。チームにとってミスもなく、課題はあるものの次に繋がるレースをすることが出来た。



坪井 翔 38号車 ドライバー

@INTERVIEW

根本的なものが解決していない

Sho TSUBOI #38

スタートは常に良い感じで、クラッシュも避けられましたしポジションをあげることもできました。ただ、朝のフリー走行でも速いチームと差があって、決勝に向けて少しでも追いつけるよう変えていったのですが、根本的なものが解決していません。晴南は5位フィニッシュですが、2人ともレースペースが良くなく、改善をしなくてはと思っています。昨年2勝したのが信じられないほど迷走中ではあるのですが、次も同じサーキットなので、それまでの一か月半でどうか打開策を見出したいです。



阪口 晴南 39号車 ドライバー

Sena SAKAGUCHI #39

メカニックたちの改善成果

スタートは無難に決められて、グリッドの奇数側がブレーキングできるスペースがあったので、多重クラッシュを避けられましたし、1台抜いて前に出ることが出来ました。レースペースは良くなかったですが、自分と後続集団が大きく離れていて、ピットに入るタイミングもミニマムで入り易かったです。またピットの作業もメカニックたちが改善を見せてくれ、とても速かったので、ピットで1秒以上先にいるクルマを抜くことに成功しました。あれがすごく大きくて、それに応えるべく頑張りました。内容としては満足していません。トヨタ勢で言えばインババル陣営が早く、また宮田選手も速いので、そこ同等のペースで走れるようになれば、予選も良い光が見えてくると思います。



立川 祐路 チーム監督

Yuji TACHIKAWA

メカニックがよく頑張ってくれた

3 8号車は予選が中団だったので、きっちり今回出来ることをやり、9位でスタートより前でフィニッシュ出来ました。39号車の方は、スタートでポジションを上げることが出来ましたし、ピット作業で1台抜いたことは、チームとしてもとてもうれしくメカニックがよく頑張ってくれたと思います。5位フィニッシュで、今回の順位は今出来ることはやったとは思いますが、トップチームには届いていません。次戦も同じサーキットですので、これ以上の結果を出せるようまた頑張りたいと思います。

To be Continued...



総評 メカニックのピット作業は、シーズン序盤でミスがあり、その後メカニックたちが練習を重ねた成果である。前戦菅生で改善があらわれ、今回はリザルトを押し上げる結果となった。チェッカー後、無線を通じて39号車のピットクルーへは阪口から感謝の言葉が伝えられた。限りあるシーズンではあるが、一つずつ前進し結果に繋げていきたい。

Results 38 予選 11位 決勝 9位 39 予選 8位 決勝 5位

Today's Race Rd.6 - Twin Ring Motegi 10.16 SAT / 17 SUN